

タイ 景気は回復トレンドながら、ペースは緩慢

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

研究員 塚田 雄太

E-mail: tsukada.yuta@jri.co.jp

1～3月期の成長率は+3.0%

2015年1～3月期の実質GDPは前年同期比+3.0%と10～12月期(同+2.1%)から加速した(右上図)。景気は2014年1～3月期を底に回復トレンドをたどっているものの、そのペースは当初の想定に比べ緩慢である。実際、タイ財務省や国家経済社会開発庁は足元で2015年の成長率見通しを下方修正している。

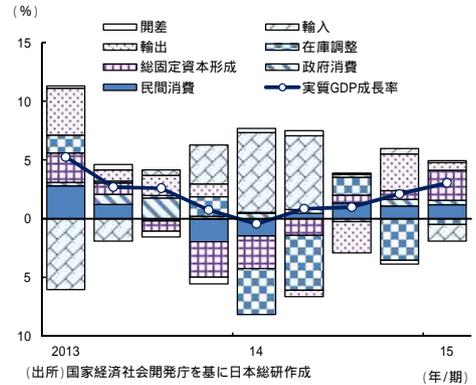
需要項目別に寄与度をみると、民間消費が+1.2%ポイント(10～12月期: +1.1%ポイント)、政府消費が+0.4%ポイント(同+0.6%ポイント)、総固定資本形成が+2.5%ポイント(同+0.7%ポイント)、輸出が+0.7%ポイント(同+3.1%ポイント)、輸入が▲1.4%ポイント(同+0.5%ポイント)と、総固定資本形成と民間消費がけん引した一方で、輸出の減速が足かせとなった。総固定資本形成は、執行が遅れていた公共投資が実施されたことで、政府投資が前年同期比+37.8%と大幅に増加した。一方、輸出は、中国など主要貿易相手国の景気減速やパーツ高、EUの特恵関税打ち切りが影響し鈍化した。また、民間消費も前期に比べ加速したものの、自動車販売の前年割れが続くなど本格的な回復には至っていない。

タイ中銀、2会合連続の利下げ

景気の持ち直しが勢いを欠き、インフレ率がターゲットレンジを下回るなか、タイ中央銀行は2015年4月29日の金融政策決定会合で、3月に次いで2会合連続で金融緩和を決定した(右中央図)。これにより政策金利は1.75%から1.50%に引き下げられた。加えて、タイ中銀は、資金流出に関する規制を緩和した。今回の規制緩和では、国内銀行の外貨預金・海外不動産投資、国内投資家の海外直接投資、国内非居住者によるパーツ建て借入、の上限引き上げ・撤廃が実施された。これらの結果、タイパーツは主要通貨に対して減価した(右下図)。特に対ユーロでは4月下旬から5月上旬にかけて約1割パーツ安ユーロ高が進んだほか、対ドルでもパーツは5%程度下落した。

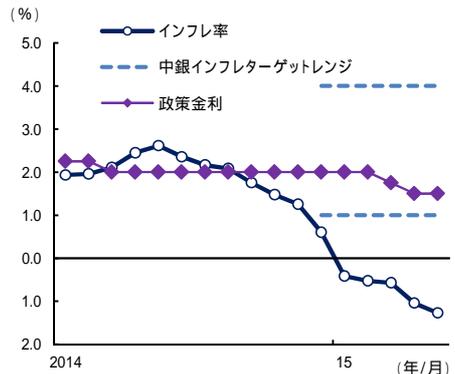
もっとも、今回の利下げ、パーツ安の効果は限定的との見方が強い。輸出は、中国の成長鈍化や日欧景気の緩やかな持ち直しペースを勘案すれば、大幅な増加は期待薄である。また、民間消費も家計債務問題などを抱えるなか、拡大スピードは限られるであろう。以上から先行きを見通すと、景気回復のけん引役となるのは、引き続き政府投資に限られ、景気回復ペースは全般的に緩やかなものにとどまると見込まれる。

<実質GDP成長率と需要項目別寄与度(前年同期比)>



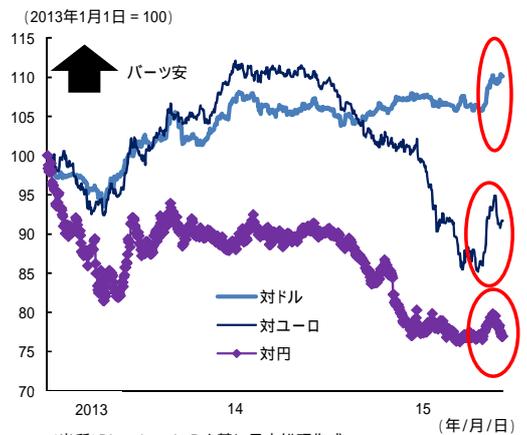
(出所) 国家経済社会開発庁を基に日本総研作成 (年/期)

<インフレ率と政策金利>



(出所) タイ商務省、タイ中央銀行を基に日本総研作成 (年/月)

<タイパーツの対主要通貨レート(日次)>



(出所) Bloomberg L.P.を基に日本総研作成 (年/月/日)

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。